



奈良町にぎわい通信

Vol.53

二〇一九・白露〜秋分

発行
奈良町
にぎわいの家





指導
細田七海先生

灯籠作り

色紙で模様を
作って



蔵で灯りをともすと...



親子で 町家探検

内から外から
町家をみよう！



NHK関西版ニュースで
紹介されました。



探検の案内は
吉田昌さんと
渡邊有佳子さん

畳をあげるの、初めて！
裏はこうなっているのかあ。



ねえ、奥には何が
あるの？！

奈良町にぎわいの家 8月のイベントから



自分で作るかき氷 &
ヨーヨーすくい



親子で作る
カレーライス

炊けたあ！この瞬間が一番嬉しい！

にぎわいの家でいっぱい思い出できたかな？



お話
旧居コーディネーター
倉橋みどりさん



●開館時間 9:30~17:00

(入館は16:30まで)

●入館料 200円

(高校生以下無料・団体割引あり)

●休館日...月曜日、祝日の翌日

●連絡先 〒630-8208

奈良市水門町49-2

TEL 0742-27-1689

奈良町 施設巡りトーク～Vol.14「入江泰吉旧居」

●施設概要

大和路の風景や仏像等の作品で高い評価を得た、写真家・入江泰吉の奈良市水門町の自宅を一般公開しています。2000年に、奥様のミツエさんが奈良市に寄贈し、入江泰吉記念奈良市写真美術館の分館となっていました。老朽化が進み、活用の方法を模索していました。地域の皆さんの声や提言等を受け、奈良市が整備し、2015年3月に開館しました。近くには東大寺戒壇院があり、川の流れる音も心地良い、水と緑に恵まれた風光明媚な地域に旧居があります。入江ファンだけでなく、全く知らない方にもくつろいでいただける「家」となっています。

●施設の様子

入江夫妻が実際に住んでいた空気感を大事にしています。写真等の展示はしておらず、お宅の説明を口頭でしながら、創作活動の根源でもあった家の雰囲気味わっていただいています。暗室からは当時の様子も伺え、書斎には沢山の蔵書もあり、様々なことに興味をもっておられた、入江泰吉のまなざしを感じることができます。昔からの知人の方は、「先生がおられた頃の風情が残っている」と懐かしくお話されたり、また若い世代の方には、家のたたずまいから逆に、写真家・入江泰吉を知ってもらう場所になっています。

●奈良を見つめた入江泰吉

この旧居は単に、入江泰吉を顕彰するための施設というだけでなく、私たちが「奈良」に対して理解を深めるヒントを与えてくれる場所であると思います。優れた写真家がどのように奈良を見ていたのか。歴史や文学を学ぶことで、奈良の景色が深まっていくように、入江泰吉を知ることで、私たちは、まだ見たことのない「奈良」に触れることができると感じています。2017年に没後25年の記念フォーラムを開催しましたが、今後も旧居を拠点に、入江泰吉の世界を広く発信していくイベントを企画していきたいと思っています。「入江泰吉を語り継ぐ」、「入江泰吉さんぽみち」など様々な講座を行なっています。ぜひ、ご参加ください。



(聞き手・文責 おのこまち)

奈良の景色を言葉と声に～東アジア文化創造NARAクラス作品展から

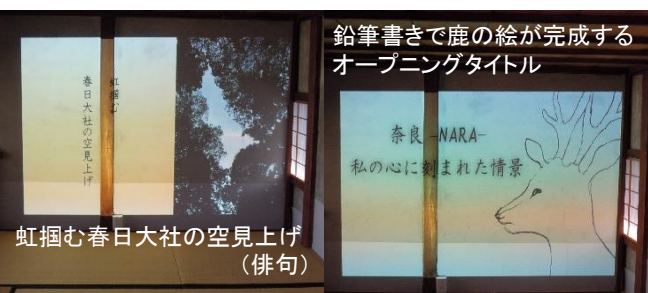
「東アジア文化創造NARAクラス」は、「東アジア文化都市2016奈良市」を契機として始まった、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道との文化交流プログラムで、奈良市の高校生～大学生が、中国や韓国の人たちと交流し、歴史や文化を学ぶとともに、地元・奈良についての学びを深めていくものです。つし二階に映写された作品は、その日中韓交流に向けて、日本側の参加者が奈良の魅力を発見・発信しようと制作した映像で、つし二階で8/17-31に映写しました。自分で撮影した奈良の風景写真に、短詩をつけ、自分で朗読、BGMもつけ、一つの映像にまとめた、完全オリジナル作です。(今号表紙に掲載。指導…小野小町/当館プロデューサー)

写真は皆さん、さすがの腕前。寺社から町の風景、身近な鹿や猫まで多種多様。そこに詩や歌をつけるとなると…こちらは中々、難しいようでしたが、自分の言葉を声にすると、文字以上に伝わるものがあり、来館者も「文字に声があるのがいいね。」との感想が。8/25には、中韓の若人とワークショップがあり(ならまちセンター)それぞれの国の風景が母国語で披露されました。若い世代のこうした交流による

相互理解が、とても大切だと感じました。当館も海外からのお客様が3割。小さなおもてなしが、世界につながっています。

逝きし人と
ことば交はして行く道の
畦にひとすぢ彼岸花炎ゆ
亡くなった人と言葉を交わすように
歩く道の畦に一筋、彼岸花がもえる
ように咲いています。

オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)



事務局だより

2019

秋分

月の話

事務局長 藤野正文

残暑厳しい日が続きますが、早くも昼と夜の長さがほぼひとしい秋分を迎えますね。

今年、中秋の名月が9月13日で、翌日の9月14日が本当の満月と、1日ずれているようです。10月11日は十三夜。

中秋の名月をめぐる習慣は、平安の宮中に伝わったお月見が、江戸時代には、農村の収穫祭と結びついて、豊かな実りの感謝を捧げ、お供え物とお月見をするようになったようです。お月見に欠かせないものといえば、月見団子をはじめとしたお供え物ですね。

月見団子は、欠けても満ちる「生や不死の象徴である月」に見立てたもので、お供えした団子を食べると、健康や幸福を得られると。そして欠かせないもののひとつが、すすきですね。すすきは「精霊」がよりつく場所（よりしろ）を表しており、本来は稲穂ですがこの時期には稲穂は無かったため、稲穂によく似たすすきが供えられるようになったとか。

また、お月を眺めているだけで心が和んできますが、そんな時に思い浮かぶのが「月うさぎ」伝説。前世の行いが悪かったため、獣の姿にされてしま

った、うさぎ、猿、キツネの前に現れたのがお腹をすかせた老人。3匹は老人の役に立とうと食べ物を探します。猿は木に登って木の実を、キツネは川で魚を捕ったけれど、うさぎはなにも採ることができず、困ったうさぎは、目の前に火を焚き、私を食べてくださいと飛び込んだとか。うさぎの優しい気持ちに感動した老人は、そんなうさぎを哀れみ、月の中に隠らせて、皆の手本にした。という仏教説話からの話のようです。月の模様は国によって様々で、中国と韓国ではやはり「うさぎ」、インドネシアでは「編物をしている女の子の人」、ベトナムは「木の下で休む男の人」、欧米では「女性の横顔」に見えるとか。

奈良町遊歩協力企画 奈良町の夜を楽しむイベント。 当館のにぎわい。

今号表紙の提灯は、奈良市内の小学生の力作！

奈良町家劇場によるオリジナル朗読劇「猿沢池ものがたり」猿沢池が国際化って？！

鯉と亀が池の様子を語るお話

自分で作るかき氷。外で食べると美味しいね。



清水公照師の書画



山村御殿文秀女王、最晩年の作。力強い筆致！



8/10、12に開催された「信仰と祈り」展。15帖の座敷に、大和ゆかりの名僧の掛軸が並びました。フランス、アメリカ、ロシア、トルコなど、海外のお客様も興味深く鑑賞していました。お盆のしつらえと共に、祈りの書画も堪能できる、この時期ならではの展示となりました。ご協力いただいた藤野幸三様、奈良屋様、ありがとうございました。

座敷展「信仰と祈り」

奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



白露



秋分

9/8~22

9/23~10/7



書：逢香

はぐれ者にことしもめぐりこし秋の白露の玉
みなかがやきぬ
前登志夫

奈良町にぎわい通信vol.53

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>